

治安維持法ノ罪ニ付罰ニ在籍ノ必要アルトキハ
ケ一月毎ニ公債ノ為替ヲ更新スルコトヲ在籍シ
ルコトヲ在籍ス

於其ノ中又ハ其ノ在籍ヲ受ケタル
區交ハ第七十七條ノ罪ノ爲ニ必要
アルトキハ一月毎ニ公債ノ為替ヲ更新スルコトヲ在籍シテ六
月ヲ越ユルコトヲ在籍ス

第七十三條 公債ノ為替ヲ在籍シテ在籍ノ必要ナシト
是料スルトキハ其ノ在籍ニ在籍シテ在籍ノ必要ナシト
ヤシムベシ

第七十四條 公債ノ為替ノ在籍ヲ制限シテ在籍ノ必要ナシト
コトヲ在籍ス

此條ノ中ハ其ノ在籍ノ必要ナシト在籍ノ必要ナシト
ハ其ノ在籍ノ必要ナシト在籍ノ必要ナシト

第二十五條 本學ハ假使若シ訊問シ又ハ其ノ訊問ヲ司法警察官ニ命
命スルコトヲ得

本學ハ公自選起ルニ依リ証人ヲ訊問シ又ハ其ノ訊問ヲ他ノ者ニ
委託シモハ可シ然レモ自ニ命命ヘルコトヲ得

司法警察官自本學ノ命命ニ依リ証人ヲ訊問シタルトキハ
命令ヲ受シタル者ノ職、姓名、其ノ命命ニ依リ訊問シタル旨ヲ
訊問証書ニ記載スヘシ

第二十七條 第二項及第三項ノ規定ハ証人訊問ニ付之ヲ準用ス

第二十六條 本學ハ公自選起ルニ依リ偵取、捜索若ハ本學ヲ屬シ又
ハ其ノ屬カラ他ノ者ニ委託シ右ハ司法警察官ニ命命スルコトヲ
得

本學ハ公自選起ルニ依リ鑑定、通譯若ハ翻譯ヲ命命シ又ハ其ノ處分
ヲ他ノ者ニ委託シ右ハ司法警察官ニ命命スルコトヲ得

附條第三項ノ規定ハ偵取、捜索又ハ檢證ノ證書及鑑定ハ、通譯又

ハ翻譯人ノ訊問書ニ付之ヲ準用ス

第十七條第二項及第三項ノ規定ハ鑑定、通譯及翻譯ニ付之ヲ準用ス

六

第二十七條 刑事訴訟法中被告人ノ自白、公訴人及被告人ノ訊問、押収、取調、確證ノ鑑定、通譯並ニ翻譯ニ關スル規定

ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外疑義事件ニ付之ヲ準用ス但シ保

及責任ニ關スル規定ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十八條 外國船隻又ハ外國航空機法律又ハ之ニ準テ發スル條

令ニ依ル禁止又ハ制限ニ違反シ當該禁止又ハ制限ニ悞ル區域ニ侵

入シタル場合ニ於テ該事搜查ノ爲必要アルトキハ其ノ船隻若ハ航

空機ニ對シ指定ノ場所ニ離航スベキコトヲ命シ若ハ之ヲ抑留シ又

其ノ船隻若ハ航空機ノ長、乗組員及乗客ニ對シ指定ノ場所ニ滞留ス

ベキコトヲ命スルコトヲ得

機體ハ前項ノ規定ニ依ル處分ヲ司法警察官ニ命命スルニ付テハ

機體ハ前項ノ規定ニ依ル處分ヲ司法警察官ニ命命スルニ付テハ

第一條ノ規定ハ第六條ニ規定スル罪以外ノ罪ニ對スル處分ニ
亦之ヲ適用ス

第二十九條 辯護人ハ司法大臣ノ命ニ從ヒタル辯護士ノ中ヨリ
之ヲ選任スベシ但シ同條所設法條第四十條第一項ノ規定ノ適用ヲ
好ケス

第三十條 辯護人ノ數ハ被告人一人ニ付テハラズユルコトナラス
辯護人ノ選任ハ被告ニ從ヒタル裁判官ニ依リ行ハルルニ依リ
受テタル申立ヨリ行ハルコトナラス但シ被告ニ對シテ選任
シタルコトヲ得ザル事トシテ被告ニ對テ選任ヲ受ケ
ルトキハ申立ノ限ニ在ラス

第三十一條 辯護人ハ裁判官ニ依リタル裁判官ニ對テ口頭辯護ヲ
爲スル旨ニハ被告檢事、官事上ノ檢察官、軍用檢察官又ハ官廳
長官ノ親明自署ニ依リタル官廳長官ニ依リタル選任スルコトヲ得
ノ場合ニ於テ辯護人ハ其ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ提出シテ

返ニ代フルコトヲ修

第三十二條 辯護人ハ訴訟ニ係スル者ノ利益ヲ爲サントフルト

キハ裁判長又ハ僚士判事ノ許可ヲ受ケルコトヲ得ス

辯護人ノ訴訟ニ係スル者ノ利益ヲ爲シ又ハ僚審判事ノ指定

シタル場所ニ依テ之ヲ爲スベシ

第三十三條 第三十六條第一項ニ於ケル罪又ハ外上下遊謀シ左ハ外

國ニ利益ヲ與フル目的ヲ以テ同條第二項ニ於ケル罪ヲ犯シタル

モノト認メタル第一審ノ判決ニ對シテハ控訴ヲ爲スコトヲ得ズ

但此ニ於テ第一審ノ判決ニ對シテハ控訴上訴ヲ爲スコトヲ

得

上訴ハ刑事訴訟法ニ於テ第一審ノ判決ニ對シテ行ハルコトヲ

得ル地トシテ行ハルコトヲ得

上告裁判所ハ第一審ノ判決ニ對スル上告事件ニ對スル事ヲ依

リ對抗ヲ爲スベシ

第三十條 裁判所ハ外國ト通謀シ又ハ外國ニ利益ヲ起スル日ヨリ
以下第十六條第二項ニ依クル罪ヲ犯シタルモノト認メタルトキハ
上ノ旨ヲ判決ニ指示スベシ

前項ノ指示ヲ爲シタル時一審判決ニ對シテ被告アリタル場合ニ於テ
上告者判所外國ト通謀シ又ハ外國ニ利益ヲ起スル日ヨリ以テ犯シ
タルモノニ非サルコトヲ疑フニ足ルベキ疑著ナル罪由アルモノト

認メルトキハ判決ヲ以テ原判決ヲ撤廢シ皇位ヲ尊嚴控訴裁判所ニ
送付スベシ

第十六條ニ依クル罪ヲ犯シタルモノト認メタルモノ一審判決ニ對シ
上告アリタル場合ニ於テ上告者判所外國ニ依テ罪ヲ犯シタルモノ

ノニ非リルコトヲ疑フニ足ルベキ疑著ナル罪由アルモノト認ムル
トキ亦同様に同シ

第三十條 上告裁判所ハ公判期日ノ通知ニ付テハ刑罰法第四
十二條第一項ノ規定ニ依ラサルコトヲ行

第三十六條 裁判所ハ本章ノ規定ノ適用ヲ受シル非ニ斷スル訴訟ニ

付テハ他ノ訴訟ノ順序ニ拘ラス速ニ其ノ裁判ヲ爲スベシ

第三十七條 第三十六條ニ規定スル事ニ該ル事件一區在法第四條ニ規

定スルモノヲ除クハ之ヲ陪審ノ許ニ付ナス

第三十八條 刑事手續ニ付テハ刑罰ノ規定アル場合ヲ除クノ外一應

ノ規定ノ適用ナルモノトス

第三十九條 本章ノ規定ハ第二十一條、第二十二條、第二十八條、

第二十九條、第三十條第一項、第三十三條、第三十四條及第三十

七條ノ規定ヲ除クノ外法律會議ノ刑罰手續ニ付テラ準用ス此ノ場

合ニ於テ民事訴訟法第八十七條第一項トアルハ民事法律會議法第

百四十三條又ハ法律會議法第九十三條、刑事訴訟法第九百

二十二條第一項トアルハ民事法律會議法第九百四十四條第一項又

ハ民事法律會議法第九百四十六條第一項トシ第九百四十七條第二項中

民事法律會議法第九百四十七條第一項ニ規定スル事トアルモノニ於テハ

民事法律會議法第九百四十七條第一項ニ規定スル事トアルモノニ於テハ

民事法律會議法第九百四十七條第一項ニ規定スル事トアルモノニ於テハ

民事法律會議法第九百四十七條第一項ニ規定スル事トアルモノニ於テハ

民事法律會議法第九百四十七條第一項ニ規定スル事トアルモノニ於テハ

民事法律會議法第九百四十七條第一項ニ規定スル事トアルモノニ於テハ

民事法律會議法第九百四十七條第一項ニ規定スル事トアルモノニ於テハ

アルハ何處ニテトス

第十條 朝鮮及露地ニ在リテハ本軍ニ抗クル法廷ハ制令又ハ命令

ニ於テ以ル場合ヲ言ム

朝鮮ニ在リテハ第七十二條第三項中刑罰第七十三條、第七十五條

又ハ第七十七條乃至第七十九條トアルハ刑法第七十三條、第七十

九條右ハ第七十七條乃至第七十九條又ハ朝鮮地事令第三條トシ第

三十五條中刑事訴訟法第四百二十二條第一項トアルハ朝鮮刑事令

第三十一條トス

朝鮮ニ在リテハ本軍中司法大臣トアルハ朝鮮總督、林事總長トア

ルハ高等法院院長、檢察長又ハ檢察官トアルハ高等法院院長、

地方裁判所檢察官又ハ高等法院院長トアルハ地方法院院長トス

臺灣ニ在リテハ本軍中司法大臣トアルハ臺灣總督、林事總長又ハ

檢察長トアルハ高等法院院長、林事總長トアルハ地方法院院長

自長、地方裁判所檢察官又ハ高等法院院長トアルハ地方法院院長

又ハ此方法既支那檢察官、秘事トアルハ檢察官、探審判事トアル
ハ探審判官トス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法ハ内地、朝鮮、臺灣及樺太ニ之ヲ施行ス

第二條ノ規定ハ本法施行後公訴ヲ提起シタル事件ニ付テハ之ヲ適用
セズ

本法施行後朝鮮刑事令第十二條乃至第十五條ノ規定ニ依リ爲シタル
捜査手續ハ本法施行後ト雖モ仍其ノ效力ヲ有ス

前項ノ捜査手續ニシテ本法ニ之ニ相當スル規定アルモノハ之ヲ本法
ニ依リ爲シタルモノト看做ス

本法ハ本法施行前裁判所ノ受理シタル訴訟ニ付テハ之ヲ適用セズ
 第一條ノ規定ハ本法施行前犯シタル昭和十六年法律第九十八號第一
 條第一項ノ規定ノ罪ニ關スル事件ニシテ本法施行後公訴ヲ提起スル
 モノニ付、第四條乃至第六條ノ規定ハ本法施行前犯シタル昭和十六
 年法律第九十八號ノ罪ニ關スル事件ニシテ本法施行後公訴ヲ提起ス
 ルモノニ付亦之ヲ適用ス
 戦時終了ノ際ニ於テ必要ナル経過規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

一 参照

- 大正十五年四月十日公布法律第六十號ハ暴力行為等處罰ニ關スル件、昭
- 和五年二月五日公布法律第九號ハ盜犯等ノ防止及處分ニ關スル件、同
- 十二年九月十日公布法律第九十二號ハ輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關
- ス件及同十六年九月十日公布法律第九十八號ハ戰時犯罪處罰ノ整列ニ
- 關スル件ナリ

不穩文藝臨時取締法

(昭和十一年六月十五日
法律第四十五號)

第一條 重税ヲ課罰シ、財界ヲ撻罰シ其ノ他人心ヲ惑亂スル目的ヲ
備テ治安ヲ妨害スベキ事項ヲ掲載シタル文藝圖書ニシテ發行
ノ責任者ノ氏名及住所ノ記載ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ記載ヲ爲シ
又ハ出版法若ハ新聞紙法ニ依ル納本ヲ爲ササルモノヲ出版シ
タル者又ハ之ヲ頒布シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處
ス

第二條 前條ノ事項ヲ掲載シタル文藝圖書ニシテ發行ノ責任者ノ氏
名及住所ノ記載ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ記載ヲ爲シ又ハ出版法若
ハ新聞紙法ニ依ル納本ヲ爲ササルモノヲ出版シタル者又ハ之
ヲ頒布シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第三條 前二條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス但シ印刷者印本引渡前ニ自首シ
タルトモハ其ノ刑ヲ免除ス

第四條

第一條又ハ第二條ニ該當スルモノト認ムル又書圖畫ニ付テハ眞實ノ記載ヲ爲シ又ハ成規ノ納本ヲ爲ス迄地方長官ハ東京府ニ在リテハ警視總監ニ於テ其ノ銷布ヲ禁止メ必要アリト認ムルトモハ其ノ印本及刻版ヲ奪取フルコトヲ得前項ノ規定ニ依リ銷布ヲ禁止メラレタル又書圖畫ヲ銷布シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

戰時刑罰特別法

昭和十七年二月二十二日
法律第六十四號

第一章 罪

第一條 戰時ニ際シ烽火管制中又ハ敵襲ノ危険其ノ他人心ニ動搖ヲ生セシムベキ状態アル場合ニ於テ火ヲ放テテ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物、汽車、電車、自動車、船舶、航空機若ハ鐵坑ヲ燒燬シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ十年以上ノ懲役ニ處ス

戰時ニ際シ烽火管制中又ハ敵襲ノ危険其ノ他人心ニ動搖ヲ生セシムベキ状態アル場合ニ於テ火ヲ放テテ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在セサル建造物、汽車、電車、自動車、船舶、航空機若ハ鐵坑ヲ燒燬シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

刑項ノ功自己ノ所有ニ係ルモノハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス

但シ公共、危險ヲ生ゼザルトキハ之ヲ罰セズ

第一項及第二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第一項又ハ第二項ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其ノ豫備又ハ煽謀ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

第二條

戰時ニ際シ烽火管制又ハ敵襲ノ危險其ノ他人心ニ動搖ヲ生ゼシムベキ狀態アル場合ニ於テ火ヲ放テ前條第一項及第二項ニ記載シタル以外ノ物ヲ燒燬シ以テ公共ノ危險ヲ生ゼシメタル者ハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス

第三條

第一條第二項及前條第一項ニ記載シタル物自己ノ所有ニ係ルトキハ十年以下ノ懲役ニ處ス
ルトキト雖モ其押ラセケ、物權ヲ負擔シ又ハ管領シ若ハ保險ニ付シタルモノヲ燒燬シタルトキハ他人エモテ燒燬シタル者ノ例ニ同ジ

第四條

戰時ニ際シ烽火管制又ハ敵襲ノ危險其ノ他人心ニ動搖ヲ生ゼシムベキ狀態アル場合ニ於テ本法第一百十六條若ハ同條

罪ヲ犯シテ火管ヲ引キ火ハ散發シ危險其ノ他ハ心ニ動搖ヲ生
 ゼシムルベシハ法第百四十九條前段若ハ等
 二百四十一條前段ノ罪又ハ此等ニ關スル同法第百四十二條
 ノ罪ヲ犯シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處シ同法第百四十
 一條後段若ハ等二百四十一條後段ノ罪又ハ此等ニ關スル同法第
 二百四十二條ノ罪ヲ犯シタル者ハ死刑ニ處ス
 第一項ノ條終ラ爲メ目的ヲ以テ其ノ豫備又ハ通謀ヲ爲シタル
 者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第六條 匪徒ニ添シテ火を制シ又ハ散發シ危險其ノ他ハ心ニ動搖ヲ
 生ゼシムルベシハ法第百四十九條ノ罪又
 ハ之ニ關スル同法第百五十條ノ罪ヲ犯シタル者ハ二年以上
 有期懲役ニ處ス

第七條 匪徒ニ添シテ火を制シ又ハ散發シ危險其ノ他ハ心ニ動搖ヲ
 生ゼシムル又ハ無期ノ懲役若ハ禁錮ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第一項ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ二年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第一項ノ罪ヲ犯スコトヲ教唆シ又ハ幫助シタル者ハ被教唆者又ハ被幫助者其ノ實行ヲ爲ス至三至五年以下ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第一項ノ罪ヲ犯シタル爲他入ヲ煽動シタル者ノ罰亦前項ニ同シ

第三項乃至前項ノ罪ヲ犯シタル者曰百シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除ス

第八條 戰時ニ際シ防空ノ實施ニ從事スル公務員ノ官該職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

第九條 戰時ニ際シ刑法第六條ノ罪ヲ犯シタル者ハ左ノ區別ニ從

于處斷ス

一 首魁ハ死刑又ハ無期若ハ三年以上、懲役ニ處ス

二 他人ヲ指揮シ又ハ他人ニ率先シテ勢ヲ助ケタル者ハ一年

以上、有期懲役ニ處ス

三 附和隨行シタル者ハ三年以下、懲役又ハ千圓以下、罰金

ニ處ス

戰時ニ際シ暴行又ハ脅迫ヲ爲ス爲多衆聚在シ當該公務員ヨリ

解散ノ命令ヲ受クルモ仍解散セザルトキハ首魁ハ十年以下、

懲役ニ處シ其ノ他ノ者ハ三年以下、懲役又ハ千圓以下、罰金

ニ處ス

第十條

戰時ニ際シ公共ノ防空ノ爲メ建造物、工作物其ノ他ノ設備

ヲ損壞シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ公共ノ防空ノ妨害ヲ生ゼシ

メタル者ハ死刑又ハ無期若ハ三年以上、懲役ニ處ス

戰時ニ際シ氣象ノ觀測ノ爲メ建造物、工作物其ノ他ノ設備ヲ

第十一條

積蓄シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ積蓄シ、額滿ニ至ルニ至リテ、
×タル年々十一年以下ノ積蓄ニ付ス

其ノ他ノ積蓄ニ付テハ、又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ公共ノ通
信、貯蓄ヲ生ゼシメタル者ハ無期又ハ一年以上ノ積蓄ニ付
ス

第十二條

貯蓄ニ付テハ、瓦斯又ハ電氣、用ニ供スル建造物、上作物其
他ノ設備ヲ積蓄シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ瓦斯又ハ電氣
公共ノ利用ノ為メニ生ゼシメタル者ハ無期又ハ一年以上
ノ積蓄ニ付ス

第十三條

貯蓄ニ付テハ、國防上重要ナル建造物、設備其ノ他、該生
産ノ用ニ供スル為メ積蓄シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以
テ其ノ他ノ積蓄ニ付テハ、該事業ノ遂行ノ妨礙ヲ生ゼシメタ
ル者ハ無期又ハ一年以上ノ積蓄ニ付ス

第十四條 刑罰 永遠罪ハ之ヲ罰ス

第十五條 職務ニ際シテ職務上不正ノ利益ヲ得ル目的ヲ以テ生活必需

品ノ買占又ハ職務ヲ濫シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ一處

罰以下ノ罰金ニ處ス

第十六條 罪ヲ犯シタル者ニハ罰款ニ因リ懲役及罰金ヲ併科ス

ルコトヲ得

第十七條 職務ニ際シテ刑罰第三十四條第一項ノ罪ヲ犯シタル者ハ

一處罰金ノ罪ヲ犯シタル者ニ處ス。又ハテハ死亡傷ニ致シタル者ハ死

刑ノ刑罰第三十四條第一項ノ罪ヲ犯シタル者ニ處ス

第十八條 職務ニ際シテ刑罰第三十五條ノ罪ヲ犯シタル者ハ無期又ハ

五年以下ノ懲役ニ處ス

第十九條 職務ニ際シテ刑罰第三十六條第一項又ハ第二項ノ罪ヲ犯シ

タル者ハ死刑又ハ無期又ハ十年以下ノ懲役ニ處ス。又ハテハ

死刑ニ處ス。又ハ死刑ニ處ス

第二項ノ罪ヲ犯シ因テ刑法第百二十條ノ條ニ定ムル結果ヲ生
ゼンタル者亦前項ノ罪ニ同ジ

第一項前段、第二項及第三項前段ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス
第十條 毆時ニ際シ刑法第百三十條ノ罪ヲ犯シタル者ハ五年以下
ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十八條 毆時ニ際シ刑法第百四十三條又ハ第百四十四條ノ罪ヲ犯
シタル者ハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス因テハヲ死傷ニ致シ

タル者ハ死刑又ハ無期若ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

毆時ニ際シ刑法第百四十六條前段ノ罪ヲ犯シタル者ハ死刑

又ハ無期若ハ七年以上ノ懲役ニ處ス因テハヲ死ニ致シタル

者ハ死刑ニ處ス

毆時ニ際シ刑法第百四十七條ノ罪ヲ犯シタル者ハ無期又ハ
三年以上ノ懲役ニ處ス第一項前段、第二項前段及前項ノ未

逐罪ハテヲ罰ス

第二項前段、罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其ノ豫備又ハ通謀ノ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

第二章 刑事手續

第十九條

裁判時ニ於ケル刑事手續ニ關スル時例ハ本章ノ定ムル所ニ

依ル但シ第二十條ノ規定ハ裁判所構成法裁判時時例第四條

一項ニ掲グル罪竝ニ刑法第七十三條、第七十五條及第二編

第二章ノ罪ニ關スル事件ニ限リ之ヲ適用ス

第二十條

辯護人ノ數ハ被告人一人ニ付二人ヲ超ユルコトヲ得ズ

辯護人ノ兼任ハ最初ニ定メタル公判期日ニ係ル召喚狀ノ送

達ヲ受ケタル日ヨリ十日ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲メコト

ヲ得ズ但シ已ムコトヲ得サル專出アル場合ニ於テ裁判所、

許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十一條

辯護人の訴訟ニ附スル費用、辯寫ヲ爲サントスルトキハ

裁判長又ハ豫審判事ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

辯護人ノ訴訟ニ懸スル管轄ハ閱覽ハ裁判長又ハ豫審判事ノ

指定シタル場所ニ於テ之ヲ爲スベシ

第二十二條

裁判所又ハ裁判ヲ管轄シタル調書ノ書本又ハ抄本ハ機密

ノ保持其ノ他公益上ノ理由ニ依リ裁判所ニ於テ之ヲ被告入

其ノ他訴訟關係人ニ交付スルコトヲ相當ナラズト認ムルト

キハ之ヲ交付セザルコトヲ得

第二十三條

豫審判事ハ商工會等所其ノ他ノ團體ニ對シ必專ナル事項

ノ被告ヲ求ムルコトヲ得

裁判所ハ公判期日以前項ノ團體ニ對シ必專ナル事項ノ被告

ヲ求ムルコトヲ得

民事訴訟法第三百四十二條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ適用

シタルモノニ付之ヲ適用ス

第二十四條 刑事訴訟法第三百三十四條、規定ハ第五條第一項位ニ昭

示シテ、第五條法律第九條第二條及第三條、違背シ、罪ニ關スル事件

ニ付テハ之ヲ適用セズ

第二十五條 地方裁判所、事件ト雖モ刑事訴訟法第三百四十二條第一

項ニ規定スル制限ニ依ルコトヲ要セズ

第二十六條 有罪ノ管領ヲ爲スニ當リ證據ニ依リテ罪ト爲ルハ本條

ヲ觀シタル理由ヲ證明シ法令ノ適用ヲ示スニハ證據ノ標目

及法令ヲ擧グルヲ似テ足ル

第二十七條 國防保安法第三十四條第二項ノ規定ニ依リテ告裁判所原

則決ヲ破毀スル場合ニ於テ其ノ事件裁判所管成法臨時條例

第四條第一項第二號ニ掲グル罪ニ關スルモ、第六十條

第一項、第六十條中決定ヲ似テ事實ノ整理ヲ爲スルハ本條ノ管

スル

裁判所管成法臨時條例第四條第一項第二號ニ掲グル罪ヲ犯

第二十八條

シタルモノト認メタル第一審判決ニ對シ地裁第一審ヲ以テ
 タル場合ニ於テ其ノ異ガ外審ト認メシ又ハ外審ニ利益ヲ與
 フル目的ヲ似テ知サレタルモノナルコト察フニ足ルベキ事
 態ナル事証下ルモノト認ムルトキハ地裁第一審判決ヲ似テ事
 實ヲ入審後ニ移送スベシ此ノ場合ニ於テ公事係ハ上告ヲ爲
 シタルトキ自リ大審院ニ送シタルモノト看做ス

上告裁判所訴訟事務録、發付ラ受ケタルトキハ該ニ其ノ旨
 上告由立人及對手人ニ通知スベシ

上告由立人ハ前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ上
 告書ヲ寫シ上告裁判所ニ提出スベシ

上告ノ對手人ハ該一項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内
 ニ前項ノ上告書寫スコトヲ得

民事訴訟法第四百二十二條、第四百二十三條及第四百二十
 四條第一項ノ規定ハ之ヲ適用セズ

第二十九條 上告裁判所上告審會、其ノ如ク、審判ニ依リト告、理由ナ

キコト明白ナリト認ムルトキハ、檢察官、意見ヲ陳キ、官廳ヲ經テ

ズシテ判決ヲ似テ上告ヲ棄却スルコトヲ得

第三十條 民事手續ニ付テハ別段ノ規定アル場合ヲ除キ、凡一總ノ

規定ノ適用アルキトス

第三十一條 第二十一條乃至第二十四條、第二十六條及前條ノ規定ハ

裁判會議、刑事手續ニ付テハ適用スル、場合ニ於テ民事訴訟

法第三百四十二條トアルハ陸軍軍法會議法第三百八十八

條又ハ海軍軍法會議法第三百九十條トシ、民事訴訟法第三百

三十四條トアルハ陸軍軍法會議法第三百六十七條又ハ海軍

軍法會議法第三百六十九條トス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ似テ之ヲ定ム

昭和十六年法律第九十八號ハ之ヲ廢止ス

第二十一條及第二十四條乃至第二十九條（第二十四條及第二十六條ニ付テハ、第三十一條ニ於テ適用スル場合ニ含ム）、規定ハ本法施行前公訴ヲ撤回シタル事件ニ付テハ之ヲ適用セズ

△ 暫時終了、際ニ於テ必要ナル経過規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

昭和十六年法律第九十八號ニ違反シタル者、處罰ニ付テハ仍舊法ニ依ル

法律第五十八號（昭和十八年三月十三日）

戰時刑事特別法中左、通改正ス

第七條第六項ヲ削ル

第七條、二 戰時ニ際シ國政ヲ變亂スルコトヲ目的トシテ人ヲ傷害シ、逮捕シ又ハ監禁シタル者ハ一年以上、有期、徵役又ハ禁錮ニ處ス因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ十年以上、徵役若ハ禁錮ニ處ス

戰時ニ際シ國政ヲ變亂スルコトヲ目的トシテ人ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ十年以下、懲役又ハ禁錮ニ處ス

刑法第二百八條第二項、規定ハ前項ノ暴行ノ罪ニ付テハ之ヲ適用セ用セズ

第七條、二 戰時ニ際シ國政ヲ變亂スルコトヲ目的トシテ騷擾ノ罪其、他治安ヲ害スベキ罪ノ實行ニ關シ協議ヲ爲シ又ハ其ノ實行ヲ煽動シタル者ハ十年以下、懲役又ハ禁錮ニ處ス

第七條、四 戰時ニ際シ國政ヲ變亂シ其ノ他安寧秩序ヲ紊亂スル
コトヲ目的トシテ著シク治安ヲ害スベキ事項ヲ宣傳シタル者ノ

罪亦前條ニ同ジ

第七條、五 第七條第二項乃至第五項又ハ前二條ノ罪ヲ犯シタル

者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除ス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

昭和十八年二月二十六日勅令第二百
十二號ニヨリ二月二十八日ヨリ施行

法律第九十七號（昭和十六年十一月十八日）

言論、出版、集會、結社等臨時取締法

第一條 本法ハ戰時ニ際シ言論、出版、集會、結社等ノ取締ヲ適正
ナラシメ以テ安寧秩序ヲ保持スルコトヲ目的トス

第二條 政事ニ關スル結社ヲ組織セントスルトキハ命令ノ定ムル所
ニ依リ發起人ニ於テ行政官廳ノ許可ヲ受クベシ

第三條 政事ニ關シ集會ヲ開カントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依
リ發起人ニ於テ行政官廳ノ許可ヲ受クベシ但シ法令ヲ以テ組織シ
タル議會ノ議員候補者タルベキ者ヲ除外スル爲メ集會及選舉運動
ノ爲ニスル集會並ニ公衆ヲ會同セザル集會ハ命令ノ定ムル所ニ依
リ發起人ニ於テ行政官廳ニ届出ヅルヲ以テ足ル

第四條 公惠ニ關スル結社又ハ集會ニシテ政事ニ關セザルモノト雖
モ必要アル場合ニ於テハ命令ヲ以テ前二條ノ規定ニ依ラシムルコ
トヲ得

第五條 屋外ニ於テ公衆ヲ會同シ又ハ多衆運動セントスルトモハ命令ノ定ムル所ニ依リ發起人ニ於テ行政官廳ノ許可ヲ受クベシ但シ命令ヲ以テ定メタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第六條 法令ヲ以テ組織シタル議會ノ議員議事準備ノ爲相團結スルモノニ付テハ第二條ノ規定ヲ、議事準備ノ爲相會同スルモノニ付テハ第三條ノ規定ヲ適用セズ

第七條 新聞紙法ニ依ル出版物ヲ發行セントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ行政官廳ノ許可ヲ受クベシ

第八條 行政官廳必要アリト認ムルトキハ第二條乃至第五條若ハ前條ノ規定ニ依ル許可ヲ取消シ又ハ第三條若ハ第四條ノ規定ニ依リ届出デタル集會ノ禁止ヲ命スルコトヲ得

第九條 出版物ノ發覺及頒布ノ禁止アリタル場合ニ於テ行政官廳必要アリト認ムルトキハ當該題號ノ出版物ノ以後ノ發行ヲ停止シ又ハ同一人若ハ同一社ノ發行ニ係ル他ノ出版物ノ發行ヲ停止スルコ

トテ得

第十條 第七條ノ規定又ハ前條ノ規定ニ依ル停止ノ命令ニ違反シテ
發賣又ハ頒布スルノ目的ヲ以テ印刷シタル出版物ハ行政官廳ニ於
テ之ヲ差押フルコトナ侍

第十一條 第二條ノ規定一第四條ノ規定ニ基キ依ラシメタル場合ヲ
含ム一ニ違反シタル者ハ一年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ
罰金ニ處ス

第十二條 第三條ノ規定一第四條ノ規定ニ基キ依ラシメタル場合ヲ
含ム一又ハ第五條ノ規定ニ違反シタル者ハ六月以下ノ懲役若ハ禁
錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條 第七條ノ規定ニ違反シタル者ハ一年以下ノ懲役若ハ禁錮
又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十四條 第九條ノ規定ニ依ル停止ノ命令アリタル出版物ヲ發行シ
タル者ハ六月以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 第十條ノ規定ニ依ル差押處分ノ執行ヲ妨害シタル者ハ六月以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條 前三條ノ罪ニハ刑法併合罪ノ規定ヲ適用セズ

第十七條 時局ニ關シ造言飛語ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 時局ニ關シ人心ヲ惑亂スベキ事項ヲ流布シタル者ハ一年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ際現ニ存スル政事ニ關スル結社ニ第六條前段ノ規定ニ該當スルモノヲ除ク又ハ第四條ノ命令施行ノ際現ニ存スル當該命令ニ係ル公學ニ關スル結社ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ其人存續ニ付主幹者ニ於テ行政官廳ノ許可ヲ受クベシ

第八條ノ規定ハ前項ノ許可ニ、第十一條ノ規定ハ同項ノ規定ニ違反

シタル者ニ之ヲ準用ス

集會又ハ多衆運動ニシテ第三條又ハ第五條ノ規定ニ依リ許可又ハ届
出ヲ要スルモノニ付テハ本法施行後三日以内ニ行フモノニ限り仍舊
前ノ例ニ依ル

本法施行ノ際現ニ成規ノ手續ヲ經テ新聞紙法ニ依ル出版物ヲ發行ス
ル者ハ第七條ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケタル者ト看做ス

◎内務省令第四十號
言論、出版、集會、結社等臨時取締法施行規則左ノ規定ニ

昭和十六年十二月二十日

内務大臣 東 條 英 樺

言論、出版、集會、結社等臨時取締法施行規則
以下法ト稱スルニ

第一條 言論、出版、集會、結社等臨時取締法一以下法ト稱スルニキハ其ノ

二條及第三條ノ規定ニ依リ結社ノ許可ヲ受ケントスルニキハ其ノ
社名、社則、事務所及其ノ主幹者ノ氏名ヲ具シ事務所所在知テ官
廳スル地方長官一東京府ニ在リテハ警視總監一ヲ經由シ内務大臣

ニ願出ツベシ

前項ニ掲ゲタル事項ヲ變更セントスルトキハ主幹者ニ於テ前項ニ

準ジ願出ツベシ

第二條 左附則第二項ノ規定ニ依ル許可ニ付テハ前條ノ規定ヲ準用

ス

前項ノ許可申請ハ本令施行ノ日ヨリ三十日以内ニ之ヲ爲スベシ

第三條 法第三條及第四條ノ規定ニ依リ集會ノ許可ヲ受ケントスル

トキハ發起人ヨリ開會二日以前ニ其ノ場所、目的及開催年月日時

ヲ具シ會場所在地ノ管轄警察官者ニ提出ツベシ

法第三條及第四條ノ規定ニ依ル集會ノ届出ハ前項ニ準ジ開會六時

間以前ニ之ヲ爲スベシ

前二項ノ集會ニシテ所定ノ時刻ヨリ三時間ヲ過キテ開會セズ又ハ

三時間以上中斷スルトキハ許可又ハ届出ハ其ノ效力ヲ失フ

第四條 思想ニ關スル結社及集會ハ法第三條及第四條ノ規定ニ依ル

ベシ

第五條 法第五條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケントスルトキハ發起人ヨ

リ二日以前ニ會同スベキ場所、目的、年月日時並ニ其ノ通過スベ

キ路線ヲ管轄警察官者ニ提出ツベシ但シ祭葬、講社、學生、生徒

ノ體育運動其ノ他慣例ノ許ス所ニ係ルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第六條 法律第七條ノ規定ニ依リ新報ヲ發行ノ許可ヲ受ケントスルト

キハ其ノ發行人、編輯人及持主タラントスル者違器ノ上左記事項
ヲ具シ其ノ發行所ヲ管轄スル地方長官一府京府ニ在リテハ警視總
監一ヲ總田ノ内務大臣ニ提出ツベシ

一、題 號

二、掲載事項ノ種類

三、時事ニ關スル事項ノ掲載ノ有無

四、發行ノ時期、若シ時期ヲ定メザルトキハ其ノ旨

五、發行所及印刷所

六、持主ノ氏名、若シ法人ナルトキハ其ノ名稱及代表者ノ氏名

七、發行人、編輯人ノ氏名但シ編輯人二人以上アルトキハ其ノ主

トシテ編輯事務ヲ擔當スル者ノ氏名

前項第一號乃至第七號ノ事項ヲ變更セントスルトキハ前項ニ準ジ

許可ヲ受ケルコトヲ要ス

發行人若ハ編輯人死亡シ又ハ新聞紙法第二條ニ該當スルニ至リタ
カトキハ假ニ發行人又ハ編輯人ヲ定メ七日以内ニ其ノ變更許可ノ
申請ヲ爲スベシ其ノ申請ニ對シ許可又ハ不許可ノ處分アルノ日迄
引續キ發行ヲ爲スコトヲ得

第七條 新聞事業令施行規則第三條ノ規定ニ依ル許可ノ申請ハ前條
ノ許可願出ヲ併セ爲シタルモノト看做ス
附則

本令ハ昭和十六年法律第九十七號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

言論取締關係法令拔萃

一 刑法

○刑法第百五條ノ二

人心ヲ惑亂スルコトヲ目的トシテ虚偽ノ事實ヲ流布シタル者ハ
五年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス銀行積
金ノ取付其他總務上ノ混亂ヲ誘發スルコトヲ目的トシテ虚偽ノ
事實ヲ流布シタル者ハ七年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五千圓以
下ノ罰金ニ處ス

○刑法第百五條ノ三

戰時、天災其ノ他ノ事變ニ際シ人心ノ惑亂又ハ經濟上ノ混亂ヲ
誘發スベキ虚偽ノ事實ヲ流布シタル者ハ三年以下ノ懲役若クハ
禁錮又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス。

二 陸海軍刑法

○陸軍刑法第九十九條

戰時又ハ事變ニ際シ軍事ニ關シ謠言飛語ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ禁錮ニ處ス。

○海軍刑法第百條

戰時又ハ事變ニ際シ軍事ニ關シ謠言飛語ヲナシタル者ハ三年以下ノ禁錮ニ處ス。

三 國防保安法

○國防保安法第九條

外國ト通謀シ又ハ外國ニ利益ヲ與フル目的ヲ以テ治安ヲ害スベキ事項ヲ配布シタル者ハ無期又ハ一年以上ノ懲役ニ處ス。

四 官機保護法

○第五條第一項

偶然ノ原因ニ因リ軍事上ノ秘密ヲ知得シ又ハ領有シタル者之ヲ他人ニ漏泄シタルトキハ六月以上十年以下ノ懲役ニ處ス。

五 戰時刑罰特別法

○第七條ノ四

戰時ニ際シ國政ヲ擾亂シ其ノ根著シク治安ヲ害スベキ事項ヲ宣傳シタル者ノ罰亦前條ニ同ジ

六 警察犯處罰令

○警察犯處罰令第二條第十六號

人ヲ誑惑セシムベキ流言浮説又ハ虛報ヲナシタル者一二十日未
滿ノ拘留又ハ二十圓未満ノ料科一

七 言論、出版、集會、結社等臨時取締法

○第十七條

時局ニ關シ流言飛語ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役若ハ禁錮又
ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス。

○第十八條

時局ニ關シ人心ヲ惑亂スベキ事項ヲ散布シタル者ハ一年以下ノ
懲役若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス。

裁判所構成法臨時條例

昭和十七年二月二十三日
法律第六十二號

第一條 戰時ニ於ケル裁判所構成法ノ施行ハ本法ノ定ムル所ニ依ル

第二條 戰時刑事特別法第五條第一項及二昭和五年法律第九號第一

條及第三條ノ竊盜ノ罪ニ付テハ區裁判所其ノ裁判權ヲ有ス但シ該

罪ヲ經ザルモノニ限ル

第三條 左ニ掲グル訴訟人第一審人判決ニ對シテハ控訴ヲ爲スコト

ヲ得ズ

一 裁判所構成法第十四條第二ノ訴訟

二 民事訴訟法第六編ニ定ムル訴訟但シ同法第五百九十七條第三

項一節六百二十條第一項ノ規定ニ依リ適用スル場合ヲ含ム

第六百二十三條第一項

第六百四十七條第三項ノ訴訟ヲ除ク
前項ノ判決ニ對シテハ直接上告ヲ爲スコトヲ得

第一項ノ訴訟ノ請求ニ附帶シテ果實、損害、若債、違約金又ハ書
用ノ請求ヲ爲シタル場合ニ於テハ前二項ノ規定ノ適用ニ付テハ之
ヲ第一項ノ訴訟ト看做ス

第四條 左ニ掲グル罪ニ付言渡シタル第一審ノ判決ニ對シテハ控訴
ヲ爲スコトヲ得ス

一 刑法第二編第七章ノ二、三、三十六、三十九、四十二、四十三、
法律第九號、戰時刑法特別法第一章、陸軍刑法第二條ニ掲グル
各條(第七十九條乃至第八十五條及第九十九條ヲ除ク)、海軍
刑法第二條ニ掲グル各條(第七十八條乃至第八十五條及第一百條
ヲ除ク)、防空法、食糧管理法及二言論、出版、集會、結社等
臨時取締法第十七條及第十八條ノ罪

二 刑法第七十四條及第七十六條、國民總動員法(第四十四條ヲ
除ク)、昭和十二年法律第九十二號、外國爲禁管理法、軍機保
護法(第二條乃至第七條及此等二關スル第十五條乃至第十七條

ヲ除ク。軍用資機密保護法一節十一條乃至第十五條及第九條ヲ除ク。要塞地帯法、國境取締法、海軍輸送港域軍事取締法、軍用電氣通信法、陸軍刑法第七十九條乃至第八十五條及第九十九條、海軍刑法第七十八條乃至第八十五條及第一百條、大正十五年法律第六十號政令不穩文書臨時取締法ノ罪但シ此等ノ罪ニシテ外國ト通謀シ又ハ外國ニ利益ヲ與フル目的ヲ以テ犯シタルモノヲ除ク

前項ノ判決ニ對シテハ直接上告ヲ爲スコトヲ得

前項ノ上告ハ第一審ノ判決ニ對シ上告ヲ爲スコトヲ得ル理由アル場合ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

上告裁判所ハ第二審ノ判決ニ對スル上告事件ニ關スル手續ニ依リ裁判ヲ爲スベシ

第五條 前二條ノ第一審ノ判決ニシテ區裁判所ノ爲シタルモノニ對スル上告ニ付テハ控訴院其ノ裁判權ヲ有ス

前項ノ判決ニ付區裁判所ノ爲シタル上告棄却ノ決定ニ對スル抗告
ニ付亦前項ニ同ジ
控訴院ノ上告悉トシテ爲シタル決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ
待ズ

裁判所構成法第四十八條ノ規定ハ第一項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六條 控訴院ガ上告裁判所タル場合ニ於テ法律ノ同一ノ點ニ付會
テ大審院又ハ上告裁判所タル控訴院ノ爲シタル判決ト相反スル意
見アルトキハ決定ヲ以テ事件ヲ大審院ニ移送スルコトヲ要ス
前項ノ決定アリタルトキハ訴訟ノ上告ヲ爲シタル時ヨリ大審院ニ
遷送シタルモノト看做ス

第七條 民事二行抗告裁判所ノ爲シタル決定ニ對シテハ更ニ抗告ヲ
爲スコトヲ得ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

秘

流言蜚語取調件数調

率	計	神奈川	愛知	兵庫	大阪	警視廳	
送局 送局	送局 送局	送局 送局	送局 送局	送局 送局	送局 送局	送局 送局	昭和十七年
一八九	一九三〇	二四九	五三〇	一三三	四七三	四七五	昭和十七年
一八三	二二四	二四一	一四七	七五	九一	六一〇	昭和十八年
三七〇	五三八	一三八	二六一	二四七	二〇二	三五六	昭和十九年
二七九	三九七	一四一	一三三	三五五	三四〇	一四一七	計
二七一	七九四	二七六	一八九	五四一	二八〇	九一	率

註 1、送局セサルモノトハ拘留料料以説諭トテ含ム但シ

愛知、神奈川以外ハ現場説諭ヲ含マズ

又、昭和十九年八月一日——十日分但シ愛知、神奈川

ハ十一月マデトス

送局セサルモノノ代表的事例ヲ警視廳ニ於ケル事件中ヨリ抄録セバ別紙ノ如シ。但シ同一内容ニシテ或ハ説諭トナリ或ハ料料ニ該ルモノアリ。別紙ニアケタルモノ、中ニ毛兩旅、取締ヲ受ケタルモノアリ。

説諭

食糧等ヲメグル宜民高間

〇〇署員ニハ配給米ヲ食ベテ居ルモノハ居ナイ
何レモ白米ヲ食ベテ升ル
知人二名

〇〇署員が憲兵隊ニ檢査サレタサウダカ何ンデモ
買出部隊ノ白米ヲ取上げテ食ベテ了ツタカララシイ
知人一名

最近警官ハ買出部隊ノ品ヲ没收シ自家用ニシテ升ル

知人四名

最近都下ノ或水車小屋テ米が頻々トナクナルノテ

知人二三名

附近住民が色々相談中或夜入ツタモノガアツタ
ノテ包圍シテ鍵ヲカケ、夜明ケニ中ヲ調べテ見ルト

夫レハ村ノ駐在巡査ガ自殺シテ牛夕サウテアル

〇〇 取テ青年ガ重イ荷ヲ持ツタ子供連レノ 知人一名

婦人ノ荷ヲ親切ニ持ツテヤルト偶々警官

ノ取調ヲ受ケ荷ヲアケテミルト米ヤ豆ガ

出テキテ此ラレタノテ 實ハ後ノ婦人ノモ

ノダト弁解スルト連レノ子供ガ其終言察官

ヲ オ父キヤント呼ニダノテ大騒ギトナツタ

母親ガ三人ノ子供ノオヤツニ身鈴著ヲ茹テ、 知人四名

使ニ行ツタ留守中一人ノ子供ガ他ノ二人分迄

食一テ了ツタヲテ二人ノ子供ハ其ノ子ヲ撲ッダ

新打ノ処ガ悪ク死ンデ了ツタ、ソコテ死ンダ子

ヲ押入ノ中ニ入レテオキ母親ガ歸ツテ聞カレタノ
テ^ニ子供ハ搜シテ来ルト表へ生タツキリ戻ラナカッタ
母親ハ遂ニ発狂シタ。

金融関係

將來敵機ガ来襲シタ際百円紙幣ガ撒布セラレ
流通ガ止メラレルヤウニナルカラ早ク両替シタ
亦ガヨイ。
未知者七八名
(理髮店)

今ノ才金ハイクラアツテモ埃ト同様ダマシ
ノ棒ガ一本一莪スル。
未知者一名

單外交政治
大東亞戦争ハ近ク日米間ニ和議成立シ終局トナル
知人一名

私ノ夫ガ或ル飛行機工場ヲ見學シテリ。詔ニヨルト
沢山ノ飛行機ガ出来テオリ、此ノ令テハ六月一
杯空襲ガナケレバ生産ヲ打切ツテモ決シテ
米國ニ買ケナイ程デ、國債等モソナニ買ハナ
クテモヨクナルサウダ。

隣組員一名
(四月)

最近ソ聯ノ船ガ宗谷海峡ヲ盛ニニ通ルノテ、我
軍ガ之ヲ取調ベ、四、五隻捕ヘタサウテアル。
知人數名

近ク戒嚴令ガ布カレマスカラ旅行ガ全然生
来ナクナリマス、今ノ中ニ旅行スルコトガ、
確カデス。
知人一名

空襲ニナルト戒嚴令ガ布カレ軍隊ガ生動スル
知人三名

警防団員ハ家へ逃ゲ帰ル者ガ多ク役ニ立タヌ
警察官モ人民救護位テ当テニナラヌ

拘留科料

〇〇駐ニ於テ私服警察官ガ現役將校

知人四五名

ノ所持スルトランクラヲ検査セントシタ処其

ノ中ニハ機密書類ガアルト非常ニ憤慨其ノ

警官ヲ殴打シタ上憲兵隊ニ連レテ行ツタ

駐テ待合中ノ老婆ノトランクラヲ警官ガ取

理髮店ニテ

調べヨウトスルト息子ガ鍵ヲ持ツテ来ルカラ

知人三四名

息子ガ帰ツテクルヌテハ開ケラレヌト云フト

警官ハトランクラヲ蹴トバシタ所へ軍人テアル

息子が戻り、申二ハ恩賜ノ煙草がアルトテ
却ツテ警察官ヲ殴リトバシタ。

拘留科料 食糧

大阪ノ生菓事タカ先日肉ヲ買ツテ食ベタ所
常会席上
後デ火葬場カラ生ダ、人森ト判リ大騒ギシタ
約十名

独乙ハ最近大分マラレタ、日本モ後二年位シカ
電車内
保テ又タラウ、戦争ニ負ケテモ庵達ハ困ラヌ
乗客約十五名
困ルノハ金持ト上ノ者バカリダ。



結社取締ニ関スル論議

中八十五帝國議會衆議院予算委員會
昭和十九年九月九日

保字課

○牧野委員(前略) 次ニ第五尙日支事變勃發以來政府尙尙ノ國民ニ
對シテ常ニ苦心シテ居ラレルコトガ輿論ノ昂揚ヲアツタコトハ既ニ申上テ
マシタ。コトナニ云民ガ本氣ニナツテ斗ル。其ノ國民ニ何故輿論ノ昂揚ノ爲
ニ政府ガ年々努力ヲシテ居ラバナラナイカト云フコトニ、政府施政ニ大キナ缺
陥ガアルト云フコトハ明カデアルト思ヒマス。第一ニ國民精神統動負運動以
米今日マテ連綿ト続テ居リテ居リスガ、内閣總理大臣、是ハ全部失敗テ
アリマシタ。殊ニ昨年私共ハ一億敢闘運動ヲ全國ニ展開シ、今年ハ又
一億総躍起運動ニ從事致シマシタガ、總テ失敗デアリマシタ。是ハ閣僚
皆様モ御認メテゴガイマセウ、而シテ此ノ臨時議会后私共ハ又更ニ決戦必
勝運動ヲ全國ニ展開致シタイト考ヘテ居リマスガ、今マテノヤウデアツテハ
效果ガナイ。小磯内閣總理大臣ノ只今ノ信念、コレヲ直チニ行ハレルナラバ
此ノ運動ト相俟ツテ、必ず全國ニ巨然タル火ガ燃エルニ相違ナイト思ヒマス。
燃エナケレバ深イ反省ヲサレナケレバナリマセヌ。燃エラレタ時ニハ、欣然トシテ、必ず
ヤ我々ト手ヲ取ラレルコトガ出来ルト思フ、デアリマス。抑、政府ト政府ト下ニ
アリマスルニ大機関翊賛政治会ト翊賛会ト各、政府ト共ニ手合フコトニテ
戦意昂揚ヲシナケレバナラヌト云フコト自作、ソノコトニ對シテ深ク反省

シテケレバナラナイト思フデアリマス。其ノ原因ハ何処ニアルカト云ハバ從來輿
論ヲ恐レラレタ。輿論ハ直言ヲシマス。直言ハ耳ニ逆ラス。ソレヲ恐レラレタ
輿論トハ思想ノ自由ナル發揮デアリマス。其ノ自由ナル發揮ト云フコトヲ本
質ト致シテ居リマスルカラ、其ノ自由ガ奔放トナフテ、先程申サレタ様ナ事
態ヲ惹起スルコトガアル。サウナツタ時ニ之ヲ指導シテケレバナラヌカ、其ノ指導
ニモ從ハズ、戦ヒル本旨ニ反スル者ハ我ガ國体ニ反スルモノデアリ。断シテ之ヲ
彈圧セラレルガ宜イ。然ルニ只今ノヤウナ状態ヲ続ケレバ民意モ昂揚セス
此ノ種ノ人間モ便乘シテ地下ニ隠レテ居ル。斯クノ如キ結果、維新ノ場
面ニ出ル者ハ巧言令色ト阿諛追従、ソレデアリマスルガ爲ニ、アノ前内閣
ノ終リク状態ナドハ、二月三月前カラ分ツテ居ル間デアリニ拘ラス。翌日、
政治会ノ内部、アレハワイソノ連中カ職業的ニ例ニ依テ騷クノニスカラ御
心配ニハ及ハヌデアスヨトテモ進言シタニアラザレバ、聰明ナル東條内閣総
理大臣ガ此ノ事實ヲ知ラレナイ筈ガナイトエテリマス（トビヤノ「拍手」）一人
ノ東條英機大將ヲ過ツコトハ國家ヲ過ツコトニシテ遂ニ階下ノ宸襟ヲ
惱マシ奉ルコトデアルコトヲ知ルナラバ、我々ハ深ク戒メサレハナラナイト思ヒ
マス（拍手）全國民ノ戦意ヲ燃エ上ラシムルモノハ民意ノ振起ヨリ急ナルハ

ナク、民意ノ振起、政治意識ノ發揮、ソレヲ自由ニスルヨリ外ニ途ハゴサイ
マセヌ。如何ニ自由ニスルトモ、今日ノ事態ニ於テ戰争目的ニ背馳スル者
アラハ、断然象ノ前ニ於テ之ヲ彈圧セラレルナラハ、全國民ハ振ヒ起ケヌ。
人ヲ罰シテ一億ヲ蹶起セシムル效果モ茲ニアルニテアリマス。総理大臣此ノ際
此ノ爲ニ広ク政治意識發揚ノ自由ヲ認メテ、結社ノ抑圧ヲ解放セラ
ルニコトヲ切望ニ堪ヘマセヌガ、此ノ實ニ對スル御決心ヲ承リタイノ存ジマス。

○小磯國務大臣　只今御説ノマシマシタ如ク、戰意ノ昂揚トハ、眞ニ情熱

ヲ以テ燃上ル所ノ國民運動ニ依ツテ、初メ其ノ目的ヲ達成シ得ルモノ
ト思フニテアリマス。情熱ヲ持テ而モ眞ニ下カラス盛リ上ツテ来ル所ノ運動
ニアラザレバ、所謂形ノ整ウテ其ノ實ノナキモノデアラウト思ヒマス。其
ノ實ニ関シマシテハ、只今牧野君ノ言ハレタ所ニ全然同感デアリマス。戰
争遂行上奉國一致態勢ヲ確立スルト云フコトモ、蓋シ斯様ナク零團氣
ニ於テ盛リ上ツテ来ルト云フヤウナ基調ヲ希望スベキコトハ申スマテモアリマセ
ス様ナ状態ニ直面致シタ今日ニ於テ、特ニ其ノ必要ヲ痛感スル。政事
結社ニ関スル方針ニ付キマシテ、私ガ茲ニ改メテ申スマテモナク、數年
前諸般ノ事情ヲ勘案致シタ上テ、今日ノヤウナ風ニ推移シ来ツニ

居ルト云々 現実ハ、何トシテモ去リ難キ軍実アリマス、隨テ現在此ノ
政軍結社ヲ設ケルカ設ケヌカト云フ向題ニ関シ許可制度ガ採用セラレテ
居リマスルカ、之ヲ今直ニ撤廃シヨウト云フヤウオコトハ考ヘテ居リマセヌデシ
タ、併シ此ノ向題ハ牧野方ノ言ハレルヤウニハ爾ク簡單ニ片付テ去ルコトヲ
許サレサル事態ニアルト思ヒマス、私ハ各般ノ真相ヲ斟酌致シマシテ
慎重ナル研究ヲ重テテ参リタイト思ヒマス。

○牧野委員、最後ニテ下致シマシテ、ハ磯内閣總理大臣カラ遺憾ナル言
明ヲ受ケマシタ、左様ナ所ニ躊躇サレル此ノ時ノ場合デハゴザイマセヌ、決戦
段階デハマリマセヌカ、倒レテ後ニ悔ヲ貽ス、モウ我々ハ悔ユル余地モゴザ
イマセヌ、即刻ノ決断、断行、秩序ヲ紊スノデハナイ、燃エ上ル意氣
ト云フモノヲ阻害スル現在ノ状態ヲ燃エ上ラシメヨ、ソレニ依ツテ秩序
ヲ紊乱スルコトアルナラバ先ヅ目ノ前ニ於テ之ヲ彈圧セヨ、ソレガケ
ノ勇氣、奴カカハ之ヲ切望スルノデアリマス、ソレハ最近斯様ナ事態ヨ惹
起致シマシタカラ御遠慮ニナルカモ知ラセヌケレドモ、今日ハ御遠慮ナサ
ル時代ガヤ本當ニゴザイマセヌ、サウシテ私ハ特殊ノ野心ヤ反感ガアツテ
之ヲ言フ、デヤナイ、ドウシタラ一億一億ヲ結集スルコトガ出来ルカ、

是レ程憂國心ニ燃エ上ツテ居ル國民、叫ビテ、之ヲ統一シテ國、
的ナ戰意昂揚ニスルコトノ出来ナイノハ何処ニ因カレト譯ネテ、遂ニ
コ、ニ至ツタ、是ガ象ノ議論ノ結論、テゴザイマス、一億ヲ一ツノ型ニ入ヒ
明朗ナラシメントスルコトハ、是ハ誤リテアル、ドイツカゴニツトラールニ統一サレ
タケレトモ、決ニテ、是ハ官制ニ統一サレタノデハゴザイマセヌ、燃エルガ如キ
彼ノ宣傳力ガアリ、彼ノ努力ガアリ、而シテ、彼ノ政治性ガ遂ニ發揮シテ
アヒニ到ツタモ、日本ニ移テ、翻譯シテ、其ノイミキ、一ヨニテ、採ヘヨウ
トシテ、茲ニ米英ヲ敵トシ、重大ナル戰ヲヤツテ居ル際ニ、其ノ輸入、翻譯
ノイミキ、一ヨニテ、考ヘテ、レハ、又、斷行出来ナイトアツテ、ハ、聲明ニ背ク
所カアルト思ヒマス、ココデス、併シ、レ、一ナ、席上、テ、ヤラウト、サウ、簡單ニ、御言葉
ノ出、ヨウトモ、期待致シマセヌ、ケレドモ、コ、下、所、テ、牧野輩、ノ、傾向ニ、逃ケラ、張ラ
レテ、ハイケマセヌ、(拍手)トウカ、最早、私ニ、今、レ、ラ、レ、タル、時間、ガ、至リ、マシ、タ、ラ、後
日、二期、シ、マ、ス、カ、モ、ウ、行、詰、ツ、テ、居、リ、マ、ス、國、論、ノ、實、質、上、タ、ケ、テ、行、詰、フ、テ、ル、ン
外、ニ、ハ、何、モ、行、詰、ツ、タ、モ、ハ、ゴ、ザ、イ、マ、セ、ヌ、色、々、ナ、非、難、ハ、ス、ル、ケ、レ、ド、モ、行、詰、ツ、タ
國、論、ガ、是、ガ、非、難、ヲ、ス、ル、ノ、テ、ア、ツ、テ、何、モ、行、詰、ツ、テ、ハ、居、リ、マ、セ、ヌ、此、ノ、國、論、
總理ノ所謂一億ヲ明朗ニスルナラハ、必ズ前途ハ、洋々タルモノアリト
確信致シマサルカラ、誓ッハ、總理ハ勿論、僚各位、是非此ノコトハ、速

カニ断行す。陛下ノ團結ヲ鞏固ニセヨ。此処ガ私ハ日清戦争ノ事、
態ヲ願フ。欲シト思フ。日露戦争ノ時、事態ヲ願フ。欲シト思フ。
日清戦争、明治二十七年、其ノ前ノ二十六年ノ末ニ議會ガ解散サレテ
以來、陸奥外交ニ対スル反對カ上下火ヲ吹イテ、遂ニ伊藤内閣ニ反對ヲ
シテ、サアソコニ新聞ハ發行停止ヲヤル。結社ハ解散ヲ命ズル。騒ギニ
騒イテ居ル時ニ、清國ガ何ゾ日本ガ結集スルトアラヤト、アノ暴慢無
礼ナル態度ヲヤツタガ七月二十九日ノ曉ニ成歡馭ヲ第一發ヲ發スルヤ
翕然トシテ我カ國論ハ一致シテ、翌八月三日ニ大詔渙發セラルヤ、
國一致ノ實ガ拳ツテアノ如キ立派ニ戦果ト國民ノ後援トガアツタテハアリ
マセヌカ。此ノ事實ヲ何トスル。アノ時位乱レタコトハナイ。越エテ十年、日
露戦争、明治二十八年ノ状態ハトウテアツタカ、東京ニ、大阪ニ、各新
聞記者、聯合ノ大会ト政治家ノ大会トガ次々ト行ハレル。而シテ遂ニ
議會ニ於テハ、勅語奉答文ニ於テ彈劾ヲシテ居ル。河野広中翁ノ勅
語奉答文ノ中ニ「今ヤ國運ノ隆替洵ニ十載一遇ナルニ方リテ」同ジコ
トヲ考ヘテ居ル。閣臣ハ施設之ニ伴ハス内政ハ彌縫ヲ事トシ外交ハ機
宜ヲ失シ臣等ヲシテ憂懼措ク能ハサラシム抑キ願クハ、聖鏗ヲ垂レ

給ハシコトヲ、斯ウ云ラコトヲ奉答文ニ言フ程國論ハ沸騰ニテ居ツタカ、官
戰ノ御詔勅が降ルトヒニヤット一致シタ。是ガ日本ノ特徴ニス。今日ハ乱レ
テ居リマセヌ。乱レテ居テ既ニ是デアルカラ之ヲ奉國一致ト云フ、國ヲ奉
ゲテ一致スル、相反スル者が手ヲ握ルカラソコニ熱ガ出、火ガ發スルノデアル、
オイトウダノ連中が手ヲ握ツタツテ生温イタテ何モスルコトハ出来マセヌ、
此ノ奥福澤論吉翁ガ明治二十七八年ノ時ニ能クマア國民ガ一致シテ吳
レタト云フテ、八月二十八日並ニ九日ノ兩日時事新報デ、日本臣民ノ覺悟
ト題シテ、一官民共ニ政治上ノ恩讐言ラ志トモウチヤナイガ、恩讐言ト云フ言
葉ガ出テ居リマス、如何ニ恩讐言ガ旺ニテアツタカニ、日本臣民ハ事ノ終局
ニ至ルマデ戰ヒカ勝ツテ目出タク凱旋スルマデ憤ニテ政府ノ政略ヲ非難
セザルコト、嬉シイチヤアリマセンカ、三人民相互ニ報國ノ義ヲ獎勵シ共
ノ美譽ヲ賞讃シ又銘々自ラ堪忍スル所アルベシ小磯内閣總理大臣
コニナ心持ニテラウチヤアリマセヌガ、餘リニ鬱血ニテ居リマス、余リニ雲ツテ居
リマス、唯是レ決断ノ一ツニ依ツテ決スル所ニアリマス（拍手）藁々ハ御決断、
アラシコトヲ希望致シマシテ私ノ道向ヲ終リマス。

○勝田委員、長 喜多壯一郎君

喜多委員、小磯内閣総理大臣ニ値、疑ヲ致シマスガ、臨時議會ハ短イニテ
算委員會ノ時間ヲ活用スル意味ニ決戦國內態勢確立ニ付テハ、同僚牧
野委員ト打合セラシマシメ、大体総論的ノ部分ノ後ヲ承ケテ、私及此ノ後ニ
シツ牛塚、阿子島ノ委員カラ總理ノ信念所見ニ対スル具體的ノ方策ヲ
承ツテ、即刻必勝國內態勢確立ヲ急ギタイ、アタタノ御言葉ノ通りニ、藉
スニ時ヲ以テスルコトハ、利敵行為デアルト云フガ、利敵トコロカ是ハ日本ヲ滅
ホス自ラノ恐れルベキカダト私ハ思フ、其ノ意味テ重クテ牧野委員ノ尚
ハレタ政事結社ヲ自由ニ許セ、私ハ自由トマテハ言ハナイ、自由ニ誤解
ガアル、併シ憂志忠誠ノ役ニ燃エテ居ル國民政治意欲ガオノツト此ノ段
階ニ燃エ上ツテ、アタタノ聲明通りニ國民ノ戦争ニ対スル共同責任感
マデ負ツテ行カウト云フモノガ現レテ来テモアタタハ之ヲ許サウトナサナイカ
結論ハハツキリシテ斗ル戦意昂揚ト云ヒ、一億敵闘ト云ヒ、政戦両略ト云ヒ
一切難カシイ言葉ハ抜キニシテ、要ハ國民ノ勝ヲナケレバ又ト云フ氣
持ガ政治ト云フカラ通ジテ来テケレバ、如何ナル運動カアツテモ駄自カト
云フコトヲ特野君ハ上品ニ言ハレタガ、私ハモワト私同様ナ國民ノ氣持デ
アトタニ傳ヘタイ、許シマセヌカ、許サヌカラ此ノ状態ナシダ、許カカッタラ
コロ数年間、此ノ議會ニ至ツテ翼賛政治會ノ方カラモ必勝國內

態勢確立ト云ニ總理大臣自ら必勝國內態勢確立ト云是レソト云
ハサルヲ得テイ私、辨証論的ニ言ヒタイ、一件此、大戦争ヲシテ居ツテ法
段階ニテニモソトノ國民、戦意昂揚ヲスズキコトヲサラサケレバナラカ
此、日本、政治状態ニ於テ、唯一、政事結社、翼賛政治会、唯一ト云
コトハ許サザルモノカラ見レ、特权的ナル而モ此、許サレタル唯一、政事
結社ハ自ら外ニ出ルカラ持ツテ居ルカ、議會運籌的政事結社ニ過キナイ
ノガ私、現状ヲトアテテ断言セザルヲ得ナイ、我々出タイ、出ナケレバ負ケル
思フ、勝タナケレバナラヌト思フ、ソレテ一方私同様ノ國民ハアテテモソト期
待シテ、小磯大將が朝鮮海峡ヲ渡ツテ来ル時ニ、ソコニキテ打ツト思
フタカラ、我々國民組織、國民運動、一之化コソハアテテ依ツテ断行
サレト思フツカラ、アテテ、月十六日ノ翼賛会總裁就任ノ辞ヲ以テ國民
ヲペシヤシコニシテ、第一ニ戦意昂揚ヲセザルヤウニシテシマツテ、揚足取リテハ
アリマセヌヨ、本當ニアテテ、聲明通りニ私共ハ國民トシテ勝ケタイカラ
戦力ヲ出シタイカラ申上ケル、悪カッタラ國家権力ヲ断ニスルガ宜イ
三者合作が出来ナカッタラ、後玉忠誠ノ政事結社ヲ許シテ御覽見ヤ
サイ、是ハウシト燃エマスヨ、先ヅ此ノ真ニ付テ私ハ前同僚牧野若人後

ニ蹴イテ、東条内閣時代ニ於ケル翌替政治会ト云フ政治統制ニ是ハ
方程式ナシニス、イケマセヌ、方程式ハ向違ソテナル、向違ソテナルト云フコト
ハ、ウキリニテ居ル、私ハ此ノ莫ニ付キ、重ネテテ、御所見ヲ伺ツテ、漸
次、具體的方策ニ入りタイト思ヒマス。

○小磯國務大臣 喜多君ノ只今ノ箇、向ニ対シテ、先般聲明シタコトヲ
再ヒ言ハザルヲ得ナイ、羽目ニ陥リマシタ、國民運動ノ組織機構ニ付キマシテ、固ヨ
リ種々ノ議論ガゴザイマセウ、併シ私ハ判断スル所ヲ以テスレバ、三者カ四者カ知
リマセヌガ、兎ニ角事ノ今日ニ至リマシタマテ、向ノ経緯ヲズツト考察シ、見
マスルト、若シ是ガ所謂敵前轉回ニアラスニテ、平時テアルナラバ、私ハ喜多君
ト共ニ之ヲ一本ニシテ、アラウト云フコトヲ確信シマス、レドモ、今日ハ一本ニスルト
云フヤウナコトニ依ツテ、決戦ノ直後ニ要ラザル波紋ヲ描クト云フヤウナコトハ、是
ハ斷然慎重ニ考ヘテ、柔デアル（ハリノ）サウ云フヤウナ考ヘヲ以テ、実行シテ行
ク、失礼ナ言ヒ分デスガ、忠誠心ノ發露ガ貴様向違ツテ居ルゾト、言ハル、
ナラバ、言ハル、ヨリ仕方ガゴザイマセヌ。

○喜多君亦會、私ハアタノ忠誠心ノ發露ガ向違ツテ居ルトハ、申シマセヌシ、
是カラモ申シマセヌ、宜シイハニス、唯恐ラク朝鮮ニ居ラレタノデ、内地ノ状況

ハソレハ勿論情報モ入ルシ、華実モ御調べニナツタト思ヒマスガ、私共ハ左様
ナ意味デアナクニ申上ゲルノハナイ、戦争ト云フノハ一ツノ立派ナ鏡ニス共
ノ戦争ニ映ル日本政治ノ姿ト云フモノガアナクハ、異ハ能ク御分リダツタ筈
ガ、アナタハハツキリト是ハ三者ヲ一ツニシタ方が宜イ、私ノ理念デハサウ思ヒ
マスト云ハヒ居ル、然ルニ表面ノ華実ヲ調べテ見ルト、今言ハレタヤウ
ニ中タノ所ガアルカラト仰シヤルガ、ソレガイケナイ、今日ハ今モ牧野君モ
言ハレタ、國民モ言ツテ居ル、三者モ四者モトアナタガ仰シヤツタガ、四者ハ必要
ハナイ、ニツテ宜イ、翼政会ト大政翼賛会ト翼賛壯年団ヲカサツト一ツ
ニシテ、ソレデソコニ相剋摩擦ガアル奴ハ怪シカラヌデスカラ断ノ一字ヲ
加ヘナイト言ツテモ、マダアナタハ之ニ対シテ決意ヲ示サレマセヌ、此ノ三者
ヲバラシ、ニシテ置イテトニ二名前ヲ変ヘテモ、コトニキリ途エリ換ヘテモ駄
目デス、ナセ駄目カ、申上ゲテ通り翼賛政治会ハ議會運営政事結社
若シアナタノ御考ヘガソレナラ、堪ラケナツテ我々ハボツト自發的ニ爆發スル
ヨリ外ニ途ガナイト此処ニ居ラレル諸君ハ考ヘラレト思フ、ソレヨリモ政
府ガト云フヨリモ、総理ガソコニキリ御打テナイマセヌカト云フノテ、私ハ
アナタノ忠誠心ガ發露如何ナント云フソノナ野暮ナコトハ此ノ箇内ノ中

ニ聊カモ含ニテ居テ、翼政会モ拘束サレテ居ル、翼賛会モ当初ノ情
勢ナシ行政的補助機関ナリト言ッテモ宜イ、行政的補助機関ナルガ
故ニアタカガ總裁ヲ縮方竹虎君ガ副總裁サウニテ内閣ガ迭ル度ニ總裁
副總裁ガ迭ルト同時ニ運動ノ中心人物ガゾロト迭ル、國民運動ト云
フモノハ一内容ノ使命ヲナクシテ此ノ戦争ニ勝ツ爲ニアルニテスカラ、是ハ
断ニテ國民向ノ盛上ルカヲ織込ニナサイト云フコトガ三者合作論ノ根
柢ナルコトガ御合リニテラナケレバ、是ハモウ立場ガ違フ、官製デハ駭目
テスソレハモウ牧野君ガ喝破シタ、私モ言ヒタリ、人ナヤテ、制度ナヤ
ナイ、アタカ断、一字ナシダ、此ノ三者ヲ合作シテ若シ戦カ昂揚ニ何カ
妨害ガアルトラバ、ソレハイケマセヌガ、モノノ影ニ怯エテイラツヤル断シテ
申上ゲル、アタカハモウ一遍私ノ意向ニ付テ、アタカノ忠誠心ノ發露ヲ疑ッ
タヤウナ誤解ヲ解カレテ、コトデア私ヨリ一寸去馴レタ牧野委員ノ眞
似ヲズル誤テヤアリマセヌガ、明日ヤル、明後日ヤルト云フヨリモ、人ツキリ、アタカ
ハ斯ウ云フ答弁ヲシテイラツヤル、此ノ本會議ヲ松村謙三君ニ対シテ
國民政治体制ニ付テハ近ク改革ト云ヒマシタカ、改善ト云ヒマシタカ、ソレハ
一寸記憶ニマセヌガ、加ヘテ行ク積リダト仰シヤツタコトガ此ノ國民運動

國民運動ニ政治性ナシ國民運動ナト云フ人ナクテスヨソコト
私ハ重テ申上ケタリ相変リス國民運動ニ精神部面ガアリ之ヲ翼
賛會ニ翼壯ヲ以テスル政治的部面ハ翼賛會カスル甚ク野暮ナ
向テスガキトタ仰ニナル國民運動ニ於ケル政治的部面精神の部
面ハ浪界如何ト云フハ公中學生ノ入學試験ノヤウナ向ヒテスガ私ト
シテハ非常ニ重大ニスカラ御答ヘテ願ヒタイ

○小磯國務大臣 政治的部面ノ精神的面ノ分界ヲ説明セヨト云フコトニア
アリマスガ左様ナ分界ガ何処ニアルカト云フコトヲ私ハ茲ニ具體的申上ケ兼
ネマス併シ分界ガ多少判明シテ居ラヌニセヨ強カニ政治面ニ向ツテ邁
進スルト云フ者ト強カニ精神面ニ向ツテ邁進スルト云フ者ト向ニ判然
行ク道ガ違ツテ居ル筈デアリマス若シドツキテ面ヲ歩イテ居ルカ訣ノ分
ラヌ所ヲ歩イテ居ルカ譯ハ分ラヌ所ヲ歩イテ居ルトスレバソレハ政治的部面
精神的面モ歩イテ居ラヌモノト存ジマス(拍手)

○喜多委員 非常ニハツキリ致シマシタソレハ結局精神面モ政治面モ歩イ
テ居ナイ大政翼賛會ナルモノヲ此ノ際發展的解消ヲナサレナケレバオラ
又ト云フ答辯ヲ總理自ラシテ下スツタモノト私ハ思フデアリマスソレテ

三者一体ニ対シテハ本邦之ヲ決スルニ相剋剋摩擦ト云フコトヲ恐ララレル。
ヤウナ傾向ガアルノ事スガ、其ノ莫ニ付テハ一ツアタノ御考慮ヲ願ツテ置キ
タイ、中々今ノ御答弁ニ申サレルヤウニ、國民運動ノ三者合体、言ヒ換
ヘレバ國民組織ノ再整備ト云フモノモ、國民運動ノ中ニ政治其ノモノヲ
吹込マテケレバ、アタガ如何ニ人心ノ一新、明朗化、大和一致ナシテ聲ヲ
嚔サレタツテ國民ノ精神ハ燃上リマセヌ、之ヲ燃上ラサシテアタノ宣言
通り日本ヲ勝タシメタイカラ、ドウゾモウ一度是ハアタノ御考ヘテ願
ヒタイト申上ゲテ置キタイ、ドレガ良クドレガ悪イト、云ツフヤウナソチ
コトハ此処デ詮索スル時間ハナイカラ私ハ申シマセヌ、アタモ仰シヤラテ
カツタガ併シ両方ノ面ニ入ラナイ、断乎抑ヘルベキモノガ澤山アルカラ、一ツ
御考ヘナサイ。

秘

言論暢達ニ関スル建議案ヲメグル結社ニ関スル
論議要旨

第五十五帝國議會衆議院建議委員會
昭和十九年九月九日

保安課

244
本森谷新一君 過去ニ於テ一億取崩運動又ハ統蹶起運動
ニシテモ其ノ計畫ト準備ト重大ナルニ拘ラス結果ハ必ズシモ
期待スル如キ成果ヲ挙げ得ナカッタト思フ是が大ナル原因
ハ國民運動ヲ推進スベキ團體ガ一ツハ公事結社トシテノ大
政翼賛會ガアリ一ツハ政事結社トシテノ翼賛政治會此ノ二天
陣營ハ分立ニアルト思フ而モ翼賛會ニハ其ノ傘下團體ニ地
域職域ノ團體ガアルガ政治性ガナイ一方翼賛政治會ハ
一億政治力ノ結集體デアルト云ハレテアルガ是モ軍ニ首象
兩院議員ノ大部分ガ一ツノ枠ノ中ニ雜然ト入ツタニ過
キ又又下部組織モ持ツテオラス加ラルニ此ノ兩者ヲ渾
然融和スベキ政府ノ決意ト指導力ノ缺クルモカアッタ此ノ
根本問題ニクモ入レナイ限り絶対ニ解決シ得ナイト思フ

今日、翼替運動の意識スルト不口ト拘ラス政治ニ影響ヲ及
ホス運動ニアリ、又政治ニ影響ヲ及ホス又運動ハ此ノ苦烈
十戦局ニ寧テ口無用ニアル、一体政治結社、公事結社ヲ律
スル治安警察法ハ四十年前自由民権ノ政党漸ク革カ
ナラントスル時ノ制定テ政党ノ政治運動ヲ陰謀ヲ取締
ル為メ法律テアツタ、此ノ際治安警察法ノ公事結社政
事結社ノ別、殊ニ政事結社ハ翼政一本ナリト云フ粹ヲ
取り外シテ、一勿論自由放任ニハ困ルガ、政府指導ノ下ニ
優良ノ結社ハ政事結社トシテ認メテ方ガ却テ民論ガ活潑
ニルキヤナイカ、或ハ政党復活ヲ恐レル向テアルカモ知レナイカ
社会的政治批判ノ前ニ必ず脱落スルデアラウ、故ニ私ハ此
ノ粹ヲ取り外シテ自ツト帰趨スル所ニ帰趨シ、棄ズルガ如
キ相剋ハナイト信スル、又政事結社ヲ多数ニスルト危険

ガアルト考ヘルナラバ、今一ツノ方法トシテ、翼政モ翼賛会モ此
ノ際発展的ニ解消シテ、地域、職域ニ黙々ト奉公実践シテ
ツアル青壯年層ヲ基盤トシテ強力ニシテ一元的ナ國民運動
中核件ヲ結成スルト云フ方法モアルト思フ。

○三好政府委員、御話ノ各種団体ハソノ成立過程ニ於テ各
種ノ経緯アリ、ソノ關係テ或ハ理念ノ実ヲ主義ノ実ヲ、或ハ
行動分野ノ実ヲ各、性値ハ異ニシテアルモ、テアリ、此ノ際一
元化ヲ図ルト現下ノ差迫ワタ時局ニ一億総力ヲ結集シテ戦
勝獲得ニ邁進スベキ此ノ際、徒ラニ反目延イテハ相剋ヲス
虞アリ、適當テナイト思フ。

○森谷新一君、然ラハ尋テタイガ、一体國民運動トシテ精神
運動ト政治運動ヲ何処テ分界スルカ、或ハ又政府ハドウ云フヤ
ウニシテ此ノ精神運動ト政治運動トヲ調整シ、而モ活発ナル

運動ヲ展開スル考カアルカ

○三好政府委員、ソレレ、団体カソレレ、分野ニ活動スル

コトヲ適當ト認メテナル次オテアル

○古井政府委員、精神運動ト政治運動、分界ハ一般ノ常

識ノ觀念カラ見、又從未ソレレ、分擔カラ見、茲ニ自

ラノ觀念ヲ考ヘテ之ニ依ツテ区分シテ行ク外ハナイト考ヘル

○山口喜委員、森谷君ノ説明ハ大政翼賛会モ翼政会モ

森谷君ノ属シテナル翼壯ニ合流セヨト云フ意味カ

○森谷新一君、翼賛会ト翼政会ノ發展的解消ニ依ル青壯

年ヲ中核トスル強カナル一元化ト云フコトハ翼賛会ノ傘下団体

テアル翼壯ハ勿論合シテナルソデアリ、但ノ団体ヲ残シテトノ団体ヲ

潰スト云フコトデハナク、唯地方ニアラテ純真ニ且眞面目ニ而モ情

熱ニ沸ツテナル青壯年ヲ忘レテ組織シテハナラナイト云フ意味

味デアアル

吉井政府委員カラ精神運動ト政治運動ト自ツト常識的ニ
分レテホリソレニ依ツテ行クベキダ一ハ公事結社デアリ一ハ政事
結社デアト云ハレタガ、私ハ國民運動ハ即精神運動デアリ即チ政治
運動デアト考ヘルソレ故之ヲ二分シテ運動ヲ起スナラハ必ズ末端ニ
對立相剋ヲ起スコトヲ憂ヘル而シテニソニ分ケテ進ムテハ政治運
動ハ下部組織ヲ持ツテナライカ活潑ナ運動展開ノタメニ組織
組織ガ要ル地方ニ政事結社ノ下部組織ヲモツタ場合ドウ云
フ混乱ガオキルカ之ヲ政府ハ如何ニ考ヘルカ

○業(吟)委員 森林君ノ意見ハ翼賛會ノ傘下団体タル産
報、農報等モ一緒ニ解消セシメルト云フ意見デアルカ

○森谷新一君 私云フハ現状ノ缺陷ハ公事結社ト政事結
社ヲ分ケル所ニ在リ而シテソレヲ梓ノ中ニ入レ函練ミニシテナル
コトガ悪イテハナイカ、タカラ政事結社ヲ他ニ認ムテモヨクハナ
イカ、或ハ又小レカニソニソテ元ノ旧政黨ニ還ルト考ヘルナラハ翼
賛會、翼政會ヲ發展的ニ解消サシテ一元的ニシタラドウカ

ト云フテ傘下団体ハ此ノマデヨイトハ思ハスレドモ今申シタ
ハハ翼賛会ト共ニ直接ノ実践部体タル翼壯ト此ノコトヲ対
家ニ地域職域ノコトヲ考ヘテナルニテアル

○北(吟)委員 サウスルト先刻ノ情報局長ノ答弁ハ提案者
ノ説明ト違ツタ答弁ニテアル問題ノ中心ハ公事結社ト政事結
社トノ関係ニテアルガ私ハ政事結社ニテモ広イ意味ノ公事結社アリ
其ノ中ノ特殊ノ性値ヲ答ヘテナルカラ公事結社ノ中ノ政事
結社ト思フ

○古井政府委員 要矣ハ両者ガ矛盾シ対立スルカト云フ矣テ
アルト思フ其ノ莫ニツイテハ自ラ分野ガ違フ支持ノ面ガ違フ
ト考ヘルガテ其ノ本分ヲ恪循スル限リテハ矛盾対立ハ起ラナイ
結果ニテラウト考ヘル

○北(吟)委員 翼政会所属ノ各員ノ希望スル所ハ翼政会
支部ヲ拡大強化シテホシイサウニテ之ガ政治運動ノ中心トナ

ソテ活潑ニ國民運動ヲ展開シテ貫ヒタイト云フ希望ハ皆
持ツテ平ル。今日、支部員ハ翼賛會ノ某参与ト云フヤウナ
役員丈ニテリ、他ノ某會議員ハ加ハラテオラヌ、翼賛會ト云フ
精神運動ヲヤル適任者カ直ニ政治運動ノ適任者ト看
做シテ支部員トシテ推薦シタモリカ、サウスト警保局長ノ語ト
矛盾スルヤウナル。今ノ狀態ニハ一部ノ某會議員ハ翼賛政
會ノ會員トシテ特權ヲ持ツテ平ルヤウニ思ハレ、不合理デアリ、相剋
ノ原因デアル。

○古井政府委員、莫ハ翼賛會ノ會員ヲ如何ニ決メルカト云
フ翼賛會ノ方針ヲ定メラレタコトト思フ。

○今井(新)委員ソレテラハ今後假ニ翼賛會カ支部ヲ作ラウトス
ルトキ、政府ノ何等干渉シナイアドウカ。

○宮澤委員長、今出席ノ政府委員ハ答弁トカ出来ナイ
カウデアルカネ總理大臣カカイテニテレバ答弁トカ出来ルカト思フ。

444
(総理大臣、此ノ真ニ関スル答弁ナシ)

決戦輿論指導方策要綱ニ基ク措置概要

警保局

決戦輿論指導方策要綱 (閣議決定) ニ基キ言論集會防諜
等ノ指導取締ニ付概テ左ノ措置ヲ講ジタリ

一 言論ニ對スル措置

(1) 取締方針ノ再檢討

國體ニ對スル信仰ヲ動搖セシメ其ノ他戰爭遂行
ヲ阻害スルガ如キ惡質ナル言論ニ對シテハ嚴重ナル
取締ヲ勵行スルモ其ノ他ノ言論ニ對シテハ努メ
テ寛容ナル態度ヲ以テ臨ミ事態ノ真相ニ對スル

(2)

國民ノ正ニ其認識ノ涵養ヲ圖ルト共ニ特ニ建設的ナル言論ヲ暢達シ適正ナル輿論ノ生起ニ資セシムルコト
尚言論取締ニ當リテハ特ニ事前指導ニ重點ヲ置キ瑣末ナル取締ハ之ヲ避クルコト
取締標準ノ再檢討

右ノ方針ニ準據シ從來ノ檢閲其他言論取締基準ニ必要ナル再檢討ヲ加ヘ、特ニ左ノ諸點ニ於テハ檢閲取締ヲ緩和シ適正ナル取扱ノ下ニ原則トシテ其ノ報道ヲ許容スルコト

(1) 敵愾心ノ激成ニ関スル事項

從來敵側ノ慘虐行為其ノ他悽愴ナル戰場
描寫等ハ國民ニ與フル思想的乃至風教的影
響ヲ顧慮シ比較的強度ノ取締ヲ實施シ来レ
ルモ今後掲記ノ趣旨ニ依リ左ノ諸事項ニ付
テハ相當高度ノ記事 寫真ヲモ許容スル方
針ヲ探ルコト

- 1、對日處分論等ノ敵側ノ對日言說ノ内容
- 2、敵ノ慘虐性ヲ暴露セルモノ
- 3、悽愴苛烈ナル戰況並ニ戰場ノ實相ヲ
描寫セルモノ

(白) 外國情勢等ニ關スル事項

1
敵國內ノ苦境ヲ暴露スルハ國民士氣ノ鼓舞
ニ資スル所歟ナカラサルベキヲ以テ國民生活
低下其ノ他敵側國內脆弱面ノ發表ハ徒ラニ
事實ヲ誇張シ國民ニ過當ナル安易感ヲ
與ヘザル限り之ヲ容認スルコト

2
歐洲戦局ニ関シ假ニ樞軸側ニ不利ナルモノ
ト雖モ敵側ノ謀略宣傳ニ屬スルモノニ非サ
ル限り之ヲ容認スルコト

3
敵側ノ發表又ハ放送ト雖モ必要アルトキハ
暴露的ニ之ヲ發表シ併セテ敵側謀略宣
傳ノ封殺ニ資スルコト

(八)

國內情勢ニ関スル事項

國內情勢ニ関スル事項ハ言論全体通シ建設的ニシテ且事實ノ歪曲誇張ニ亘ラザルモノハ努メテ之ヲ許容スルコト即チ左ノ諸事項ニ付テハ右ノ趣旨ヲ以テ従来ヨリモ之ガ發表ノ範圍ヲ擴張スルコト

1 政治及ハ政策批判

2 國內經濟ノ隘路面

3 犯罪關係

4 官吏ニ對スル批判

(3)

5、各種災害ニ関スル報道

6、發明科學等ニ関スル發表

禁止制限事項等ノ整理

(1)

防諜上ノ必要其ノ他 要請ニ依リ新聞記事ノ制限又ハ禁止ヲ爲シタル事項ニ付之ヲ整理スルコト

(10)

國內ノ調査照會等ハ防諜法令ニ抵触スル場合ヲ除キ公益的性質ヲ有スルモノハ可及的自由ニ之ヲ認ムルコト

二 集會ニ對スル措置

國民ノ戰意昂揚其ノ他健全ナル輿論伸暢上
適當ト認メラル集會ニ對シテハ努メテ簡易ナル
許可手續ニ依ラシメ特ニ一億憤激米英擊摧運
動トシテ行フ集會ニ對シテハ政事集會トシテ
ノ取扱ヲ爲サズ地方ノ實情ニ應ジ便宜ノ取
計ヒテ爲スコト

(備考)

本件趣旨徹底ノ爲左ノ措置ヲ採リタリ

(1) 主務部課長會議ニ於テ右方針ヲ指示ス

(四)

地方廳檢閱主任者會議並全國主要日刊社懇談會ニ於テ右方針ニ関シ指示懇談ス

(八)

九月十六日、十月十二日付夫々通牒ニ於テ演說會、座談會等ニ於ケル言論取締方針ヲ指示ス

昭和十九年九月現在

新聞紙法に據る主要普通雜誌

警保局檢閱課

15

(政治、外交、社會、軍事)

題	號	發行回數	發行所	責任者
現 公 論	代 月 刊	小石川區音羽町三ノ一九 大日本雄辯講談社 牛込區三〇〇一五 牛込區着町二七 第一公論社 牛込六四二四 麻布區三河臺町一四 其社 赤坂三三五〇 〇七五二 麴町區丸ノ内三ノ一〇 其社 丸ノ内一〇四五 五〇四八 京橋區銀座西六ノ二 其社 銀座三二八六	御 郷 信 祐	上 村 勝 彌 難 波 英 夫 半 澤 玉 藏 能 仲 文 夫

2

外交評論月刊

麴町區丸ノ内二ノ一二 日本外政協會
丸ノ内二、〇五七

山形誠一

復興亞細亞

麴町區内幸町東拓ビル國際日本協會

五十嵐隆

○

世界知識

銀座六、二八二

内藤民治

神田區錦町一ノ五ノ五 誠文堂新光社

小川菊松

國際文化協會々報

赤坂區田町七ノ一 其社

佐藤定勝

2

政治月刊

赤坂一、七八五 二、七〇四

古谷未男

神田區司町一ノ四ノ三 日本政治文化研究所

杉原正巳

小石川區久堅町一〇八 日誌通信社

笠原直造

日本橋區通三ノ一 河出書房

中村正幸

麴町區内幸町一ノ二 東拓ビル三階

糟谷健夫

東亞會 銀座八、五三〇

東亞月刊ロシヤ

新	丁酉	東亞	東亞	內外	東亞	南洋	南方
倫理	倫理	問題	問題	公論	國政	洋	方
論	演集	題	題	論	政	洋	方
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
サラーリマン社 日本橋一、九一九	芝罘田村町二ノ一二 天泉ビル、其社	銀座一ノ五ノ一五 大日本出版株式會社	京橋二四〇七	神田區須田町二ノ一七 生活社	浪花一、四二八	芝罘佐久間町二ノ一〇 其社	芝、六八六
麻布區飯倉町三ノ二七 其研究會	赤坂五〇八八	丸ノ内三ノ六 其協會	丸ノ内〇六〇六 三九〇〇	澁谷區代々木本町八〇八	四谷一、一四七		
池田 潤	香原 一勢	鐵村 大二	佐野 八十衛	宇田 國策	岡本 愚	松平 正敏	

時局情報	翼賛政治	明邦評論月刊	下イッツ月二	東洋文化	太平洋	大東亞月刊
丸ノ内〇三二一	有樂町一ノ一一 毎日新聞社	銀座八五七〇	麹町區永田町二ノ一二 其會	京橋區木挽町二ノ四 四國ビル	芝三二六二	芝區田村町三ノ七ノ一 日獨出版協會
相馬基	横山正一	石田昌	瀧口潔	松本洪	西方秀雄	川三郎

✓
 ✓
 (✓)



同盟時事月報	日本學研究	眞實青年叢書	眞實壯年叢書	猶太研究	村之農政	日本教育	防空	地勢學	地理學研究	
月刊	、	、	、	、	、	、	、	、	、	
日比谷公園市政會館 同盟通信社	麻布區筈町八 其所	澁ヶ淵三ノ一 大日本製實青年團本部	、	内幸町辛ビル 國際政經學會	銀座二二八	大手町農商省內農業報國聯盟	小川町三ノ八 國民教育圖書株式會社	永田町一ノ一七 日本防空協會	西神田一ノ三 日本地勢學協會	神保町一ノ五九 中興館
藤川 寛	山本 光雄	徳田 穰	、	蘇埤 伊太郎	川村 和喜治	矢島 一二	淺山 文雄	古川 滿秀	矢島 一二	

工業策月刊	國土計畫	蒙古月刊	週刊朝日週刊	週刊每日	官論報國月刊	海と船	月刊中日	ビルマ	海と空
内幸町一ノ一工政會	一ツ橋二ノ五 其研究所	西大久保四ノ一七〇 善隣協會	大阪市北區中之島三ノ三 朝日新聞社	大阪市北區堂島上二ノ三六 毎日新聞社	京橋區銀座西七ノ二 大日本言論報國會、銀座〇、八〇九	京橋區新川二ノ二 日本海事振興會	京橋二、一八一―四	名古屋市中區西川端町一ノ五	中部日本新聞社
小野俊一	野副重次	齋藤貢	樋口正徳	須古清	鹿子木員信	松崎勝兵	渡邊登	金子豐治	書田未男

亞細亞研究	秩序	大東亞公論	比律賓情報	綜合インド月報	財團法人 日本タイ協會々報	開拓	社會政策時報
日本橋區吳服橋二ノ一 其 社	銀座西五ノ二	銀座西七ノ一 日本電報通信社	世田ヶ谷區上馬町三ノ八八二比律賓協會	赤坂 四五〇七	麴町區三年町一 綜合インド研究室	銀座六三三七	淀橋區下落合一ノ四三七 日本タイ協會
落合長崎三三四〇	麴町區一番町一九 滿洲移住協會	九段五〇六七―九四九一	芝區芝公園六號地 協調會 芝二二三一	山本 殿	出原 忠夫	遠山 峻	首藤 恒
杉田 久雄	西山 武八	三ツ木 隆治	岡本 久吉				



世界と日本	興亞新報	ラテンアメリカ研究	皇道世界	東亞研究所	日獨文化	宣傳月刊	放送
・	・	・	・	隔月	年四回	刊	・
麹町區丸ノ内二ノ一二 丸ノ内 二〇五七 日本外政協會 麹町區内幸町二ノ二二 興亞調査會 銀座六〇〇三・一〇七三〇	麹町區内幸町二ノ二二 興亞調査會 銀座六〇〇三・一〇七三〇 霞ヶ關外務省内ラテンアメリカ中央會 赤坂區溜池一 三會堂ビル海外之日本社 赤坂〇四六二	赤坂區溜池一 三會堂ビル海外之日本社 赤坂〇四六二 神田區駿河台二ノ一ノ一 其所 麹町區三番町四 其協會 九段三〇九五	神田區駿河台二ノ一ノ一 其所 麹町區三番町四 其協會 九段三〇九五 銀座西七ノ一 日本電報通信社 銀座四一一一 五九一一	銀座西七ノ一 日本電報通信社 銀座四一一一 五九一一 芝區田村町一 日本放送出版協會 銀座〇七〇七一六二六六	山形 誠一 阿部 美策 海本 徹雄 中村 嘉壽 伊藤 武 小塚 新一郎 齋藤 一寛 奥野 熊郎		

航空文化
 交通東亞
 同盟世界週報週
 東亞農業月
 軍建協力會々報
 櫻菊
 つはの
 航空工業

刊刊

藤澤 閑二
 藤澤 閑二
 清水 政 親
 齊 藤 一 寛
 野 尻 義 通
 清 水 揚 之 助
 森 本 光 男
 野 村 定 五 郎
 黒 川 義 通
 藤 森 政 行
 總町區内幸町二ノ一 大阪ビル文藝春秋社
 銀座五六八一―五
 麹町區大手町一ノ六 其 社
 日比谷公園内同盟通信社
 赤坂區一ツ木三一、西ヶ原刊行會
 京橋區二ノ八 京橋ビル 其 會
 千駄ヶ谷町四ノ七三七 櫻 菊 會
 四谷三七七五
 九段一ノ五 軍人會館内其發行所
 溜池町三一山王ビル 日本報道社
 銀座西二ノ一 日刊工業新聞社
 京橋五一五一

華

北月刊

蕨町區内幸町一ノ二ノ一

華北交通株式會社

有樂町二ノ三 朝日新聞社

河瀬松三

櫻木俊晃

鈴木文四郎

小川菊松

杉田才一

中野勝義

松本昇

櫻木俊晃

航空朝日
大陸書刊
科學書報
大東亞報

アサヒグラフ
週刊
月刊

飛行日本

日本寫眞

科學朝日

(寫眞、書報、科學)

錦町一ノ五 誠文堂新光社
日比谷公園二號地 市政會館内
同盟通信社

芝區田村町一ノ三 大日本飛行協會

銀座五六七七

有樂町一ノ一一 毎日會館

寫眞協會 丸ノ内六〇八一—六七〇六

有樂町二ノ三 朝日新聞社

機	寫	太	科	生	科	漫	禮	報	海
械	電	陽	學	活	學	畫	軍	軍	海
化	學	陽	知	科	文	報	畫	報	海
	學		識	學	化	道	報	道	海

.
.
.
.

駿河台二ノ一〇	神保町三ノ一三	有樂町二ノ三	神田區錦町一ノ一六	神田〇八七〇	有樂町一ノ一	丸ノ内〇三二一	文部省科學局	銀座 五七七九	神田區錦町三ノ六	神田〇八〇六	京橋區木挽町八ノ四	神保町二ノ一〇	日比谷公園市政會館	香羽町三ノ一九
山海道出版部	アリス社	朝日新聞社	其普及會		毎日新聞社		其協會		其		其	山海堂	くろがね會	大日本雄辯講談社

石田周藏	北原鐵雄	鈴木文四郎	三宅騷一	相馬基	大丸秀雄	兒玉照	中山正男	來島捨六	山添幸治郎	高木義賢
------	------	-------	------	-----	------	-----	------	------	-------	------

日本評論月刊

京橋三ノ四 其社

鈴木三男吉

ダイヤモンド月三回

京橋六一九一―五
霞ヶ關三ノ三ノ五 其社

石山皆男

東洋經濟新報週刊

銀座四二五五―九
日本橋區本石町三ノ二ノ一 其社

濱口二

高橋財界月報月刊

日本橋八二八二、八三
芝區田村町二ノ一五 高橋財界研旭室

石濱港

科學主義工業

銀座一八五七
小石川區春日町一ノ一 其社

野澤義朗

實業之日本 本月二回

小石川五五九二―五
銀座一ノ三 其社

高橋龜吉

實業之世界 月刊

京橋五二二一―五
芝公園五號地 其社

初見成

芝〇六一五―六

二木和英

增田義彦

野依秀市

平澤雪村